

2010 年度広大マスタース市民講座 「現代社会と人間関係」

黒川 正流

第 1 回は 6 月 5 日に企画者である黒川正流会員が「社会と個人・集団と個人」の題で、私たちが意識的・無意識的に他者たちと影響しあう過程を、過去の実験研究の結果などを交えて話しました。

ただ、(わかりやすく)考察する、という企画者のねらいは 22 名の聴講者の一部の方々に対して独り相撲に終わったようで、忸怩の念があります。(出だしは引き分け(または一敗)というところでしょうか)。



第 2 回は 6 月 12 日、岩村聡会員が「カウンセリング」において相手の気持ちを「受容」することの大切さを中心に、デモンストレーション・紙上応答練習・質疑・事例紹介を交えて説明されました。40 名の聴講者は「よい聞き方」の基礎技術と、カウンセリングの価値観を習得できておおいに満足の様子でした。(これで 1 勝 1 分けかな)。



第3回は6月19日、総合科学研究科の浦光博教授にソーシャル・サポートの講義をお願いしました。「支えあうことの光と影」の演題で、孤立が心身の健康を悪化させ社会を劣化させる事実を、ボランティア活動行動者率と犯罪発生率の負の相関で例示するなど、光の部分から話が始まりました。しかし支えることには「小さな親切、大きなお世話」的な落とし穴がある、地域の壁が厚く家の壁の薄い過去の社会から、地域の壁が薄く家の壁が厚い現代社会への変貌の中で、地域力低下に代わるボランティア意識の高まりが望まれる、というお話が聴衆17名の共鳴を呼びました。（これで2勝1分け）。



第4回は6月26日、総合科学研究科教授で男女共同参画推進室長を兼務する坂田桐子氏が登板。氏は広大ハラスメント相談室相談員でもあり、「ハラスメントのかたち」の演題にぴたりの講師でした。主にセクシャル・ハラスメントとパワー・ハラスメントがどのような形で現れるかを日常の事例で説明し、男女を問わず被害者にも加害者にもならない人間関係の在り方を示唆されました。雨の週末に集った16名の聴衆の質疑が続きました。（完勝）。



（終わってみたら3勝1分け、というのが自己採点結果です。甘いかな？）